



羨濃

一之瀨

竹迺春

集虛齋右來女編

可圖

Handwritten text in vertical columns, likely a transcription of the main text or a commentary. The characters are in a cursive style.


~~~~~

~~~~~

~~~~~

雙芝



回

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~







鳥羽玉丸おと帯ちりく 英字

川崎の陽さ月の後れり 木口紙

こころに九息子可なりて美言 校書

岸よそく海舟さるる 舟 某老 月影

仙の名子 心も皆聖に柱 又こ

大粒ふゆれり 降りて 狂心

くちまをりてく 鞠の跡任也 友招

白紙をり 使者の 痺れ膝を振 桂花

在生れ半席のふりく 堀立 菊光

よききき 細くく月のさる 月 如程坊

ささささ かくるく 夏れ 紙うき 三法

可ぬま 泣く 佛に ね 某老

ささく 春 帆れ 雲ふ 隈 松亭

嘆きふよ 心 笑 梅亭

解つて 入せ 喜 陽 梅心

二 居れ 依 又 心 離 一 心 某老



在るはるはるハルハル

弘芝

十々ふちふちハルハル

里加

サキ 瘡々々々々々

藍江

笑りやうやうやうやう

枕月

新もはるはるハルハル

宇哉

おとととととととととと

了乐

神もはるはるハルハル

董恭

江もはるはるハルハル

素仙

惚惚惚惚惚惚惚惚

梅奇

さうさうさうさうさう

壺浦

富士とととととと

松文

葉門々々々々々々

重和信

すすすすすすすす

如傳

木らうやうやうやう

一凡

女史かかかかかか

吾流

女史はははははは

鬼狂



地を渡るおろの舟の月夜

新橋

さしづめあふみのくさおろ

芦水

さしづめあふみのくさおろ

古童

古童の身ぶるの舟に女よき

素水

うしろを花の舟に花よき

一紅

とほの月夜舟に花よき

月夜坊

舟を渡るおろの舟に花よき

二水

紅くはげぬけの舟に花よき

巨雪

舟を渡るおろの舟に花よき

静

舟を渡るおろの舟に花よき

一

舟を渡るおろの舟に花よき

司

のひらきおろの舟に花よき

知

舟を渡るおろの舟に花よき

林

舟を渡るおろの舟に花よき

何

舟を渡るおろの舟に花よき

文

舟を渡るおろの舟に花よき

柳



身揚りよ〜く〜月 証 権堂

か〜よ〜師を 輝よき〜之 如も

室中あ〜おの 舞〜 此虹

観よれ千の矢よ〜法あ〜 不反

落〜 耀の 照〜 其溪

遊〜との 相伴あ〜人 如喜

よか 国 候〜れ有〜も 一喜

引〜く〜聖の 後れ月 静〜 故乐

稽々 伸る 小田の 薊 株 鳥古

正ニシ管の子、自〜訓きぬ 花と〜と〜 俚凡

そ 若 幼〜とぬ ち〜七 猿 翁

サ 切〜 鳴 儀〜 一 渡 あり〜 早和

お 是れ 玉の 老り 如〜やく 臥重

行〜よ〜 信とる 露の 後 志り 後柳

あ〜〜 秋〜 花〜 花〜 花〜 申子

う〜れん 花〜 七月 露の 事 一 空琴



夢の羽衣に小鳥のささげ

其二

おろしき草紙に身もい

所従ふ百人技藝を先程

雪のしらべのささげ

そのまゝささげ

懐しのささげ

懐しのささげ

懐しのささげ

ころりぬえれ杖の赤泥

ハチマキのささげ

子にやせ徳を叫ぶこと

行路のささげ

柳の葉は厚れ大つ

とささげ

配所の夏を飛ぶて

玉のささげ



のしもきりけりさあらしと 石角

雲石よりむし車れ行くよみ 枝登

河十角も湯まきくさ 風 系町南

心しりしきりしりてぬくまの 月 系劇

ふんて中おの新おうしり 再の

十の 十の 細れおとりに尾端 舟の如き 芝喜

はれしきりしきりしきりしきり 舞夏

まふ人のあしきりしきりしきり 林心

酒もきりしきりしきりしきり 舞外

あらしきりしきりしきりしきり 叶邊

降しきりしきりしきりしきり 里橋

あらしきりしきりしきりしきり 其兆

揚羽れしきりしきりしきり 艾翠

清尾

其二



叶の移りそや来りてすつらひまき程を  
けりもあはれなる程相水の帯約おひ文を  
南の志あはれなる程く目おひ文を  
軍の志あはれなる程く目おひ文を  
たのみの西目と文をひくもや  
猪の志あはれなる程く目おひ文を  
あはれなる程く目おひ文を

八十は菊

あはれなる程

あはれなる程く目おひ文を

あはれなる程く目おひ文を

右喜

あはれなる程く目おひ文を

林政

あはれなる程く目おひ文を

一瓢

あはれなる程く目おひ文を

新紅

あはれなる程く目おひ文を

文童

あはれなる程く目おひ文を

竜池

あはれなる程く目おひ文を

二叶

あはれなる程く目おひ文を

有翠

あはれなる程く目おひ文を

鹿夕

あはれなる程く目おひ文を

喜海



うらやましくもつらき 結露とやうに

葉丸

長閑なふしに癒へくもくもく痛むは

遠味

うらやましくもつらき 結露とやうに

沈黙

軍部もつらき 結露とやうに

麦稜

昔れうらやましくもつらき 結露とやうに

似合子

この川月もつらき 結露とやうに

箒首

りやうとくく 此頃産も初涼

加舎

猿田賣の御礼ふめくもくもく痛むは

ハリス 其頃

うらやましくもつらき 結露とやうに

不顯

ね 職もつらき 結露とやうに

嵩た坊

山平つらき 結露とやうに

糸川

耕れ 結露とやうに

紫衣

うらやましくもつらき 結露とやうに

竹葉

野 言ふはれはつらき 結露とやうに

香玉餅

釣井橋とやうに 結露とやうに

梅心

うらやましくもつらき 結露とやうに

毒粉



小、くまの酒の多し織りて 松保

あましと夢の若菜の如きらん 帛衣

うさねもやしも多可月のお 踏夕陽

身あうふり匹しん 登筆 壺水

男若きわらふ氣まふあひ 春乐

こきれおかきうらゝぬきと事 燕子

杉の梢に春報あましん 春厘

な殿のねとまゆれはほく 春路

きりし詠め吹滅と肌を 可之

<sup>ニウ</sup> 山も仰れぬり報言中 柳枝

雀の舞ふ時亀も江も深く 女宿

菜の習とまゆれきく自しん 春雀

埴生れ小玉の軒の玉水 之保

不破れ名し車石のあましん 踏夕

うさねもやしも引て行あひ 春水

相持師の事しまふ人れぬしん 春葉



春はあけこふ春桂さく  
 夏二  
 秋はあけこふ秋の月  
 籠  
 他はあけこふ田舎  
 同土も  
 福治  
 かしらあけこふあけこふあけこふ  
 彼燕  
 路球あけこふあけこふ  
 徳用  
 花味  
 以ろもあけこふあけこふ  
 夕雨  
 あけこふあけこふあけこふ  
 伊豆  
 春はあけこふあけこふあけこふ  
 伊豆

春はあけこふ

春はあけこふ

春はあけこふあけこふあけこふ  
 大塚  
 春はあけこふあけこふあけこふ  
 新員  
 春はあけこふあけこふあけこふ  
 垂茶  
 二見あけこふあけこふあけこふ  
 司楽  
 耕一あけこふあけこふあけこふ  
 燕子  
 玉藻あけこふあけこふあけこふ  
 都く  
 春はあけこふあけこふあけこふ  
 雲龍  
 春はあけこふあけこふあけこふ  
 由之



掬——ほくや一のぬきほむの月 一瓢

ろくほく二とれきと律心——  
全市中 李恩

文藝のきりしき——筆見月 竹博

文藝と子代も色人——松の主 椿堂

松と加糖入らやかきと人—— 五里

千代の菊みゆりおき——你 二章

長月にあくほりるるれをき 友根

徳のむれはかきとさき——菊と月 権心

ろく——月と朝きくまのくき 雨海

月と名のきりもき——二と取 一草

名も高——梅のちきりれきりしき 友伍

秋のろく月とと——きと二とと 芝吉

月とほろの師作くきととと 桑弘

ほく——きりきり——二見のり 其偏

ろくたう——ろくおきととととと キ 権心

まきとと月ととととととととととと 而二



柳〜〜〜〜〜  
紫紅

文〜〜〜〜〜  
一雙

鳥〜〜〜〜〜  
清志

鳥〜〜〜〜〜  
交翅坊

鳥〜〜〜〜〜  
其雀

文〜〜〜〜〜  
其如

切〜〜〜〜〜  
紅映

長月の名〜〜〜  
龍集坊

長良

招配〜〜〜〜  
文庫

今〜〜〜〜  
戸松

坪〜〜〜〜  
梅香

花〜〜〜〜  
梅止

侍〜〜〜〜  
悟生

今〜〜〜〜  
鳳麟

鳥〜〜〜〜  
紫雲

花〜〜〜〜  
残雨



世の中

世の中は 百景

後の名し又新とありて月 翠之

そとありて 松月

後ちほん 松川

あとありて 松

作とありて 月

除とありて 里

月とありて 止

世の中は 松

あつとありて 如

あつとありて 友

あつとありて 松

あつとありて 松

あつとありて 松

あつとありて 松

あつとありて 松

六







下

何れも一ヶ月の二見の形

石と松の間に在りて一ヶ月の二見の形

末廣一ヶ月の二見の形

市の繁華一ヶ月の二見の形

修く一ヶ月の二見の形

徳の間に在りて一ヶ月の二見の形

月一ヶ月の二見の形

梅の間に在りて一ヶ月の二見の形

月一ヶ月の二見の形

梅の間に在りて一ヶ月の二見の形

月一ヶ月の二見の形

梅の間に在りて一ヶ月の二見の形

月一ヶ月の二見の形

梅の間に在りて一ヶ月の二見の形

月一ヶ月の二見の形

梅の間に在りて一ヶ月の二見の形

月一ヶ月の二見の形

梅の間に在りて一ヶ月の二見の形

月一ヶ月の二見の形

梅の間に在りて一ヶ月の二見の形

月一ヶ月の二見の形











色あけのねたきふにるる

百紙

在ナナ

狂木

と〜〜〜〜〜とねの月

良代

松亭

清〜〜の集代ねの月

仲

水

和〜〜のゆき〜〜の菊

芥子

柳橋

ね〜〜の菊や作〜〜にるる

芦水

隠〜〜の〜〜の菊

糸巻

ね〜〜の〜〜の菊

呂崔

と〜〜の〜〜の二るる

十一

一陸

一の〜〜八十年代の〜〜の月

春風

修〜〜の集代菊の〜〜の月

フカイケ

再可

文〜〜の〜〜の〜〜の月

牧新田

士巻

通〜〜の〜〜の〜〜の月

北取

江

春〜〜の〜〜の〜〜の月

赤紙

花月

修〜〜の〜〜の〜〜の月

友

木に伝

朝〜〜の〜〜の〜〜の月

る草

〜〜の〜〜の〜〜の月

信竹







十日の菊も、形も菊の千代 細月

不憚りも、形も世に様々 小川

いさよ中、形も、の借入 アノ

いさよ中、形も、二見 吉信

日、形も、多岐の 吉浦

長月、形も、主 十五、枝吉

いさよ中、形も、千代 室永、吉信

いさよ中、形も、 又、吉信

未冬、形も、 之、吉信

一、形も、 如、吉信

千代、形も、 枝、吉信

秋、形も、 田ノ上、吉信

いさよ中、形も、 シカノ、吉信

八月、形も、 一ツ木、吉信

帝の、形も、 ヒダ、吉信

いさよ中、形も、 カル、吉信

五







築秋の梅——  
急乙

殊凡の貝の影——  
桐蔭

まきの花梅や枝の影——  
花宮宿

ふるくは伊人二つんの松の千代  
草二

月と花の影——  
夕ハラ

月と雲の影——  
イセシヤ

るるの葉影入やそを影——  
女宿

思ふかきこもるこもる——  
東田ハラ

さきさき・花入月と作る二つんく  
三保

梅の影に月影——  
岩々

世の影に二つんの月や千代の松  
音渡

月影の月影の影や二つんく  
まき

末の影に花影——  
士柳

つらつら二見の影の影——  
重なる

築秋の月の影——  
何夕

はらわら花影や月影二つんく  
二水







松の如くふ

解夏

すも種中月松乾のるの榮

深和

傳入るを伴く月也中二ん

其度

菊月中可く文巻のうひせめ

夕井  
松交

抽く葉のまき高くは

喜後

菊よ金。月のまきや幾千代

心蝶

文まねれらへて菊し糸鳥

世外

世のまき中菊の繁り

仇堂

世のまき入る。松の如く木

文堂

まき入る。月のまき

旭舎

まき入る。松の如く

世外

世のまき中月のまき

ホハタ  
藤乃

のまき。又長地久月

外中房

まき入る。松の如く

トヨハニ  
松家

まき入る。松のちりや

文波

世のまき入る。松の如く

一ノセ  
存翠



傳くものきりぬきしは 菊の香

ほろろわしとくさるるにや 秋の風

静かき心こぼれ 秋の月

その月と作く不易や 山嶽

さき一月のちしるや 作くこと

さのふれ 秋の月

○

麻衣とくさるるの 秋の月

草

蕪草

秋風

泉和

林菴

梅香

牧羊菴

梅思坊

菊ふ 秋の月 梅香

長くに 秋の月 其地

秋の月 菊の香 梅香 泉和 林菴 梅香 牧羊菴

言のふれ 秋の月 其地

草







諸國記章

伊勢

阿下井

藤原の御所

月亭

藤原の御所

治田  
三信

藤原の御所

石川  
二凡

藤原の御所

松の庄  
高重

藤原の御所

加賀

藤原の御所

梅屋

藤原の御所

二五川  
所宗

之河

大原井の

藤原の御所

陸地

藤原の御所

赤乙

藤原の御所

赤明

藤原の御所

赤芳

藤原の御所

赤心



肥後

文其のてらてら、河や暮草

山崎町所  
呼若

あつらふと作く二つの廟

新倉

作くちやまはく思月都か

磯泊

海にほむ名う二る此浦の月

如疎

是ういふのふりくにる向り

松尾

世々、なまふ、あまやま、まよのま

ト水

新作く月や二るのる此も

葦堂

昔も、徳とまこりんね、まらら

洞花

色、くち、あま、あま、作く

花野

清く、るのあま、あま、月、秋

疎心

其の、あま、あま、あま、あま

里記

月と、あま、あま、あま、あま

南冥  
あま

世々、あま、あま、あま、あま

花野

清く、る、あま、あま、あま

如二

清く、る、あま、あま、あま

呼若



晴るのあそびをきりしるのいよとせ  
 二巻  
 晴る——とちや伊づるるの月  
 湖舟  
 晴るとくんと作く二つのねと竹  
 風信  
 ちとく作くるのさくちや春の月  
 如柳坊  
 ちよみ梅くちやさるの晴るやるの月  
 教経  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 鳥扇  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 鳥扇  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 鳥扇  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 鳥扇

天地くちらん月日の交其の  
 少船  
 十の世くちらん月日の交其の  
 長田  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 舟田  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 高七  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 同坊  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 流和伝  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 鳥扇  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 鳥扇  
 ちよみくちやさるの晴るやるの月  
 鳥扇







あはれいしきとちかや月の二る夜 乙平宮系 竹の影

あはれいしきとちかや月の二る夜 培田軒御 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 三ノ軒御 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 内牧 秋の月

肥 否

あはれいしきとちかや月の二る夜 長甘キ 芝の影

あはれいしきとちかや月の二る夜 と森 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 秋の月

あはれいしきとちかや月の二る夜 秋の月



花 徳のりるよき中 カレマ 時雨路

ふらふらややく月のほろ い狂

月くきし フカホリ 色松



カ  
12

花 府内 呼な

花 と解

花 去

花 璃梅

花

越  
茶

花 移并 帆

花 緑

花 江

花 大虫 文



諸國混雜

長月くちりたる

飛彈下京

まゝ

四方に名を思ふ

長門萩

如月

子代くちりたる

信ノ倉本

佐英

月心の徳の光り

全萩原

其鬼

美信の徳も果て

美洛

如藍

まゝの月のかげ

若菜

子代の如き

栞

まゝくちりたる

マナコ

佐幹

作く月の如き

周防三丘

合

まゝかき

東

佐

菊のまゝ

若



村



村



諸國名録

橘落やむしを招く同喜飲 中ノ月 南水

薪燵くあそむる思はれし事あり 中ノ月 木巴

松のまふれ計し維く落る少哉 中ノ月 木家

里々のまふれ計し維く落る少哉 中ノ月 木家

名月やまふれ計し維く落る少哉 中ノ月 木家

儀積心奉ふまふれ計し維く落る少哉 中ノ月 木家

夕まふれ計し維く落る少哉 中ノ月 木家

十



竹をみたりけり春の風 半呆  
 花の香もよもや夢をみる 是住  
 鏡をみよ入女も借る 日物  
 夕のやま田よあはれ 一言  
 月代のらげもあはれ 口古  
 春の香も夕のあはれ 輪人  
 牛の息も驚かす折れ 次郎

春の香も夕のあはれ 南中房  
 夕のやま田よあはれ 柳の傍  
 月代のらげもあはれ 古里  
 春の香もよもや夢をみる 飯白  
 鏡をみよ入女も借る 自居  
 夕のやま田よあはれ 指井  
 月代のらげもあはれ 花香  
 春の香もよもや夢をみる 指山







蕉門書林

京寺町三條下町

野田治兵衛

春日  
乙



